

当該事業の目的は、整備のみならず、整備した場所を有効に利活用し、かつ、地域住民の憩いの場などとして機能することで、はじめて実現できると言えます。

そのためにも、市民、事業者、行政など各関係者が役割分担、連携・協働しながら、整備した場所を積極的に利活用するとともに、維持管理しながら、次の世代へと受け継いでいくことが大切です。

ここでは、①市民・市民団体（地域住民）、②事業者（NPO・企業・漁業者等）、③行政の取り組みの方針について整理しました。

①市民・市民団体（地域住民）

事業目的	事業目的に対応する取り組み方針
①海を身近に感じ、海に直接ふれあえる環境の創出	日常のくらしの中で、自らが海にふれあう機会を積極的につくる、または、提供する。
②良好な海辺環境の保全・維持	海的环境を守っていくようなライフスタイルを心がける、または、提案する。
③地域や地域経済の活性化（交流人口の増加など）	地域の海に愛着を感じるとともに、海辺の資源を活かして地域を活性化させる。 ※海辺の資源：伝統文化（祭・習慣・製造技法）、特産物、風景、生き物等

《取り組み例》

- 海岸清掃やイベントなどの開催や積極的な参加
- 美化活動などのための団体の設立や団体への参加
- 海辺の資源を活かした地域の賑わいづくりのためのイベントなどの開催や参加

②事業者（NPO・企業・漁業者等）

事業目的	事業目的に対応する取り組み方針
①海を身近に感じ、海に直接ふれあえる環境の創出	日常のくらしの中で、人々が海にふれあう機会や場を積極的に提供する、または、提供しようとする者への支援・協力をを行う。
②良好な海辺環境の保全・維持	海辺環境に対する理解を深め、保全・維持のための活動に取り組む、または、取り組もうとしている者へ支援・協力をを行う。
③地域や地域経済の活性化（交流人口の増加など）	地域の海に愛着を感じ、海辺の資源を活かした地域の賑わいづくりに積極的に取り組む、または、取り組もうとしている者へ支援・協力をを行う。

＜取り組み例＞

- 海岸清掃やイベントなどの積極的な開催や財政的・物的な支援・協力
- 行政との協働による海の環境に関する普及・啓発活動
- 地産地消や就業体験などによる漁業振興

③行政

事業目的	事業目的に対応する取り組み方針
①海を身近に感じ、海に直接ふれあえる環境の創出	日常の暮らしの中で、人々が海にふれあう機会や場を積極的に提供する、または、提供しようとする者への支援・協力をを行う。
②良好な海辺環境の保全・維持	海辺環境に対する理解を深め、保全・維持への理解を得るための普及・啓発活動に取り組む、または、取り組もうとしている者へ支援・協力をを行う。
③地域や地域経済の活性化(交流人口の増加など)	地域に適した規模・内容で、海辺の資源を活かした地域の賑わいづくりや新たな事業の創出に取り組む、または、取り組もうとしている者へ支援・協力をを行う。

＜取り組み例＞

- 各種イベントや環境教育・環境学習等の開催や場・機会の提供
- 海の環境に関する情報提供や普及・啓発活動
- 海辺の資源を活かした地域の賑わいづくりのための取り組みに対する補助金などの財政的な支援